

事業実施報告

開催日	令和5年7月2日（日）		
事業名	テンパーク・絵本の森（夏編）		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	19家族52名
対象	幼児から小学校低学年を含む親子		
関係機関名			

状況報告 （事業の内容・事業の成果と課題について記載）

〔事業の内容〕

絵本専門士による絵本の読み聞かせ、岩手県環境アドバイザーによる自然観察・図鑑作り・草花遊びを行った。図鑑完成後には、参加者同士が交流する時間を設定した。

絵本の読み聞かせを、参加者は木陰の丸太いすに腰掛けて聞いた。夏に関する絵本、自然観察や図鑑づくりにつながる『なつのいちにち』『ちいさなおおきなき』の読み聞かせにより、子どもも親も、絵本の世界に引き込まれ、森へ出かけようという意欲が高められた。

自然観察の前に、環境アドバイザーから野外活動の際に注意するもの（ハチ・アブ・ウルシ・クマ・ヘビ）について指導があり、その後、図鑑を書くための小枝えんぴつを作った。そして、草や葉を直接貼り付ける方法、樹皮や葉のこすり出しなど好きな手法で、自分が自然とふれあって感じたことを図鑑にまとめる活動を行った。

ワークショップでは、複数の家族がグループになって、互いの図鑑をほめ合い、子どもも保護者も満足感を得ることができた。さらに、草木遊び「ホオノキの葉の飛行機」を紹介し、作って飛ばして楽しんだ。

最後に大型絵本『おおきなきがほしい』を読み聞かせてしめくくった。

〔成果〕

- ・68家族の応募があり、抽選を経て19家族52名の参加を得た。
- ・両講師との事前打ち合わせを2回行い、冒険の森周辺の植物と環境を把握した上で選書、活動のねらいを共有することができた。導入としての絵本、絵本をヒントにした自然観察・図鑑作り、しめくくりの絵本にしっかりとつなげられたのは、絵本専門士と環境アドバイザーに協力いただいた大きな成果である。
- ・活動の方針として、子どもたちの気づきをほめてくださいというアドバイザーの言葉を保護者もスタッフも受け取って活動できたこと、交流の場面でほかの家族からもほめられ、子どもの自己肯定感の高まりにつながった。
- ・閉会式では、子どもたちが感想発表に挙手する姿が見られた。「図鑑づくりとえんぴつ作りが楽しかった」「足元の小さな葉っぱが、この後大きくなってどうなっていくのか楽しみだ」などの感想が出された。保護者からは「大自然の中で、めったにないくらいじっくり観察できて楽しめた」「青空の下での絵本の読み聞かせは迫りもあり、またゆっくり全身で感じながら聞けてとても楽しかった」などの声が寄せられた。
- ・アンケートには、「ふだん当たり前にある草や葉が学びの教材に変わり、子どもたちも様々な発想で図鑑をつくるのができてよかった」「自然とふれ合う機会がなかなかないので、イベントを通じて親も子も気づきができるのはいいと思った」などの感想が出された。
- ・事業全体への満足度は「満足」「やや満足」を合わせて100%であった。絵本を通じて自然の楽しさ、面白さを親子でじっくりと味わうことができたと思われる。

〔課題〕

- ・会場設営では、降雨に備えてタープを寄せて設置したため、密度が高まり、蒸し暑く手狭な様子だった。適切な広さを確保する。
- ・小枝えんぴつ作りでは、事前に準備した材料の太さや穴の位置に不十分なものがあり、予定時間を超過した。入念に準備してスムーズに図鑑づくりに入れるようにする。
- ・ウルシについて事前指導したが、採集してしまう子がいたので、実物写真で示したり、現物を確認するなどより注意を喚起していく必要がある。

状況写真



「絵本専門士による読み聞かせ」



「環境アドバイザーによる自然観察の導入」



「集めた葉を図鑑にする子」



「図鑑を紹介して交流」



「飛べ！ホオノキの飛行機」



「絵本の世界に引き込まれる子どもたち」